

最後の約束

〈群馬県〉佐々木 典子 41歳

「俺は生きてる意味があるのかな」

いつもと変わらない夜勤の日に、ふと、Tさんが私に言った。Tさんから想像もできない言葉だった。妻にはいつも、亭主閑白な態度で接していたのをよく見ていたからである。前立腺がんの告知を受け、手術、化学療法を続け頑張ってきた。しかし、他臓器への転移もあり、回復が困難なことの告知を新たに受けていた。

呼吸苦があり、酸素吸入を開始、排泄感覚も分からなくなり、時間を見計らっておむつ交換を行っている状態まで悪化していた。そんなTさんが、本当の気持ちを語ったのである。「今、何が一番つらいですか?」とそっと聞いた。

「自分で何もできないで生きることだよ」。その時、Tさんと最初の約束をした。

「私はTさんにつらい思いをしてほしくありません。一緒につらいことを取り除いていきたいです。私も頑張りますから。そのかわり何でも話してくださいね」

「俺と頑張ってくれるんかい、ありがとう」
きつと、体もつらかったのだろうと思う。それから、夜間だけは素直なTさんへ変わった。

しかし、1カ月後、私は看護教員への道が決まった。Tさんと約束したことが守れなくなってしまったのだ。今の状態でTさんと離れるのは、とても心残りがあった。私はTさ

んに本当のことを話すことにした。

「Tさん。私ね、来月から看護学校の先生になることになったんです。一緒に頑張る約束したのに、守れなくて本当にごめんなさい」。すると、酸素マスクを外してTさんは言った。

「Sさんみたいな看護師さんをたくさん育ててくれ。俺はもう大丈夫だから。ここの看護師さんはみんないい人だから、心配いらないよ。そのかわり今度はそれが約束だ」。そう言うのと、再び酸素マスクをして目を閉じて呼吸を整えた。退職してすぐにTさんは亡くなった。

私は、看護師としてTさんから最高の言葉をいただいた。そして、最後の約束を胸に今日も学生にTさんの思いを伝えている。